

令和6年度やさしい未来都市会議要旨

1 趣旨

社会情勢の変化や新たな政策課題に対応するため、本市の方向性や主要施策の推進について、外部の有識者と意見交換し、識見を深めることを目的として、以下のとおり会議を実施した。

2 日時

令和6年10月10日（木） 15時00分～17時00分

3 出席者

主宰（市長）

委員11名（委員名簿のとおり）

4 内容

（1）意見交換テーマ

女性活躍推進と男女共同参画

（2）委員意見抜粋

アンコンシャス・バイアスの現状、多様な働き方等について

- 大学教員の募集の中で、「女性枠」という制度を作り、女性しか手を上げることができない仕組みを作り、女性教員の増加に繋がる取組みを行っている。
- 企業において、20～30歳代の若手社員は性別役割意識がほとんどない世代だが、40～50歳代の社員は、「結婚すれば、すぐ辞めてしまうので、しっかり教えてももったいない」などと発言をする方もおり、アンコンシャス・バイアスの世代間ギャップが生じている状態である。
- 医療界は看護師をはじめ、女性が多い職場である。比較的昔から、上司の理解の下、女性が仕事を辞めないように、また、続けていくことができるように、勤務時間や担当職務の調整を上手く行ってきた。
- 学校の中において、「男女別の名簿」や、「入学式・卒業式で先に入場するのは男子、後に入場するのは女子」、定められた理由が説明できない校則など、無意識のうちに「男らしさ」、「女らしさ」を求めるような風潮があり、アンコンシャス・バイアスが存在する。
- 会合などの業務分担の中で、「受付（女性）」と書かれた資料があり、古い地区では、「受付は女性がするものだ」という意識がまだ残っているところもある。
- 小さい子どもがいる女性社員に「早く帰りなよ」と声を掛けるが、同じ立場の男性社員には言わない。女性だけでなく男性にも配慮が必要である。
- 子育てなどのために一旦退職した女性が40歳くらいで再就職を希望する場合の再雇用制度について、賃金面なども考慮しながら考えていきたい。

- 教育機関として、キャリア教育だけでなく、学生の学びの中でもアンコンシャス・バイアスの解消に向けたテーマも取り上げるべきではないのか。また、卒業後に東広島で就職し、その後、結婚、子育てとライフステージが変わっても住み続けられるような良いイメージが必要ではないか。
- 最近の学生は、男子学生よりも女子学生の方が、勢いがあり、キャリア志向も強く、課外活動なども積極的である。女子学生は自分が学んだことを活かすために都市部の方に職を求め、都市部志向になる傾向がある。

今後、市が取り組むべき施策について

- 若年女性が住みたい、居続けたいと思う都市の要素について分析する必要がある。
- 子育て世代はご両親のサポートがあって、働き続けることができる世帯もある。子育てをしながら、安心して働くことができるように、自治体が支援してくれる施策があればよい。
- 行政には啓発活動や情報発信に力を入れてほしい。
- 働く場づくりや女性が活躍できる事業の創出など、産学官が協力しながら取り組んでいければよいのではないかと思う。